

きつきサンドイッチ - 広がるコミュニティは城下町の具 -

江戸時代、松平3万2000石の城下町として栄え、南北の高台に武士が住み、その谷間に商人が暮らしたため凸凹である「サンドイッチ型」城下町となった。世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域など農業においても有名な地域です。しかし、それぞれの農家が集まって直売をすることなどはあまり行われておらず、地元住民に農産物の良さが浸透していません。なので、江戸時代に商人の町として栄えた城下町は今以上に活気のある街となる可能性を秘めています。よって、私たちは第一産業を主とした活動拠点を提案します。



いまの梓菜市の様子



梓菜地域では、特有の地形と豊かな自然環境により農作物や漁業、家畜などの第一産業が活発に行われています。その中でもきつき茶やみかんがブランドとして人気を誇っています。

生産者のコミュニティ



第一産業の生産者が食材を持ちよることで生産者同士や地元住民との交流が生まれるような市場を設けます。凹型の向かい合った地形は一体的な空間となり農業振興の拠点となります。

地域住民のコミュニティ

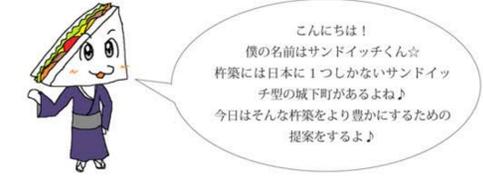


キッチンハウスでは、市場などで手に入れた梓菜の新鮮な食材を用いて料理を作り、住民どうしの様々な交流の場となります。みんなで集って楽しく食べることで、地域農産物への愛着心や安心感を深めることができます。

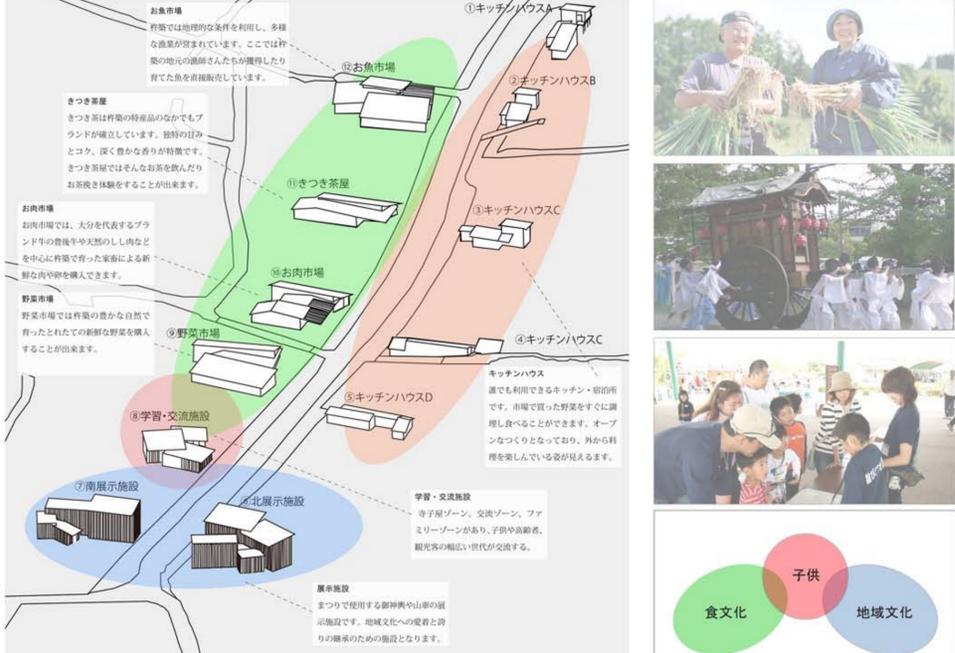
観光客のコミュニティ



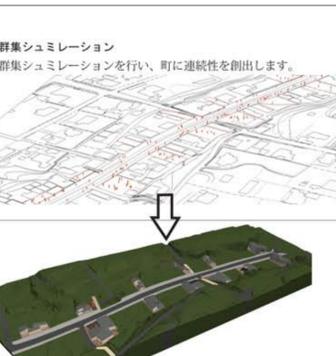
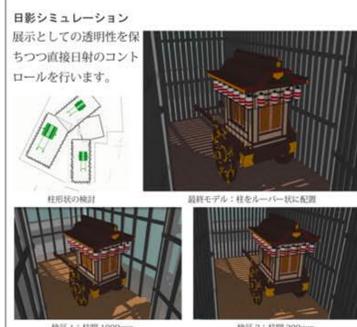
この場では、訪れた人は生産者から直接話を聞き、梓菜の食を堪能することが出来るでしょう。地元の住民に溶けこみながら梓菜独特の街並みを味わい、文化に触れ、のんびり観光出来るような空間を創出します。



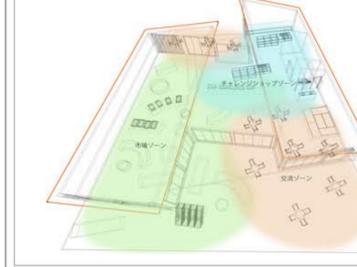
プログラム



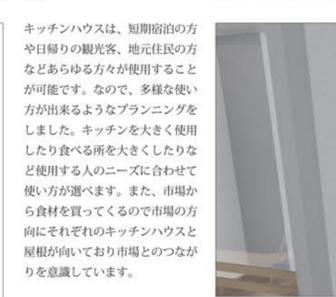
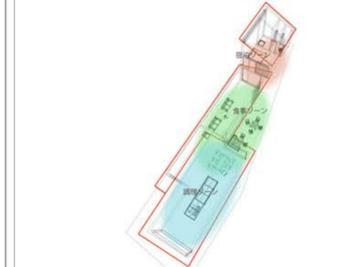
環境解析



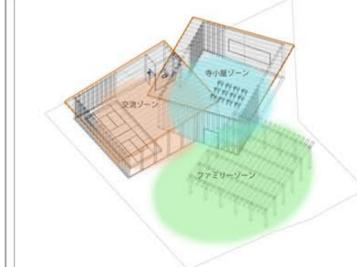
⑨野菜市場



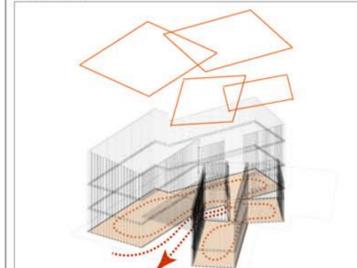
⑧キッチンハウスD



⑥学習・交流館



⑥北展示施設



市場ゾーン、キッチンハウスゾーンを向かい合わせで配置し、お互い見える・見られる関係によって城下町の食を介した交流を生む。また、学習・交流ゾーンを、市場・キッチンハウスによる梓菜の食文化のエリアと、展示ゾーンによる歴史的な地域文化のエリアの中央に配置することによって、日常的に梓菜の文化を感じられる場所とした。

生産者・地域住民・観光客と新しいきつき



まちの断面

